

—2022年度 卒業式より—

魂譲り（譲り手）

今日、私たちは活水女子大学での学びを終え、それぞれに与えられた新たな道を歩もうとしています。これまでの学生生活を振り返ると、様々な出会いや経験で多くのことを学びました。そこには喜びや楽しさだけでなく、思い悩むことや苦しいこともありました。そんなときも家族や友人、先生方、多くの人に支えられ、今日という喜びの日を迎えることができました。

活水学院は今から144年前、愛と奉仕を建学の精神として掲げ、「この学院に連なる全ての者が、いつまでも渴くことのない活ける水を豊かに汲み取り、永遠の命を得るように」との祈りを込め、エリザベス・ラッセル先生が創立されました。この手桶には、その思いが満ち溢れており、ここに結ばれてきたリボンの一本一本には、先輩方の祈りが込められ、活水の伝統として今もお受け継がれております。

今回私は、卒業生を代表して、「白」と「赤」のリボンを新たに結び加え、在学生の皆様にお譲り致します。白のリボンには、「月の光のように皆の進むべき道を照らしてほしい」との願いを、「赤」のリボンには「どんな時も太陽のように明るく、自分に誇りを持ってほしい」との願いを込め、お譲り致します。

在学生の皆様、どうかこの2本のリボンに込められた思いを心に留め、「活ける水を汲み取るもの」となってください。皆様の歩みの支えとなるよう、「新約聖書ローマの信徒への手紙5章3-4節の御言葉、「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。」をお贈り致します。

最後に、活水学院の上に、神様の豊かな祝福とお恵みがこれからも限りなくありますよう、心よりお祈り申し上げます。

荒木 乙羽（国際文化学部 日本文化学科 卒業生）

魂譲り（受け手）

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

ただいま、これまで多くの先輩方より受け継がれてまいりましたこの手桶をお譲り頂きました。今年は新たに、「月の光のように皆の進むべき道を照らしてほしい」との願いを白色のリボンに、「どんな時も太陽のように明るく、自分に誇りを持ってほしい」との願いを「赤」色のリボンに託し、結び加えて頂きました。わたくしたち在校生は、この2本のリボンに込められた思いを心に刻み、「永遠に渴くことのない、活ける水」をくみ続ける活水の学生として、歩んでまいりたいと思います。

卒業生の皆様は、この学び舎で、神様からの限りない愛を受け、先生方やご家族の祈りに支えられ、励まし合いながら歩んできた友人と共に様々な体験や学びを通して大きく成長され、今日、晴れの日を迎えられました。これからは、それぞれの道を歩んでいかれますが、喜びや感謝の時ばかりではなく、忍耐が試されるときや、困難を覚え全てを投げ出したいこともきっとあると思います。しかしどのような時にも、神様はいつも共にいて先輩方の行く手を照らし、導いてくださいます。どうか愛と希望をもってこれからの道を歩み続けてください。

最後に、今日から始まる新たな歩みの上に、神様の豊かなお恵みと祝福がありますよう、心よりお祈り申し上げます。

真砂 光星（国際文化学部日本文化学科2年）